

あいさつ

大阪市立中学校教育研究会
特別支援教育部長 金森 茂生

機関紙「特別支援教育」第64号の発刊にあたり、貴重な教育実践や研究成果をお寄せいただきました先生方、発刊に向けご尽力いただきました編集委員の先生方をはじめ、携わっていただきましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の国内での最初の感染が報告されてから2年が経過しました。この間、感染の「波」を幾度と繰り返す中で、人々の行動制限や感染対策をしたうえでの経済活動を余儀なくされてきました。学校も同様に「感染症対策マニュアル」のもと、一定の制限をかけながら教育活動を進めざるを得ない状況が続いています。生徒たちにとっても窮屈な学校生活が続いており、人と人とのふれあいから学び成長する機会もずいぶん少なくなっていると危惧されます。

そのような中ではありますが、大阪市立中学校教育研究会特別支援教育部では「子どもたち一人一人が、共に学びに向かい 生きる力を育む教育をめざして」を研究主題に取り組んでまいりました。今年度より中学校において本格実施された新学習指導要領では、インクルーシブ教育システムの構築、多様な学びの場、合理的配慮の考え方、すべての学校で特別支援教育を推進することが示されています。また、子どもたちに習得させる資質を「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学び向かう力・人間性」の3つの柱で整理していますが、なかでも「学び向かう力・人間性」の涵養（水が自然に染み込むように、無理せずゆっくりと養い育てる）は、特別支援教育において目指してきたことでもあります。子どもたちが周りの温かいまなざしのもと認められ、「自己有用感」を育てることで社会参加の基礎としての「生きる力」の育成につなげることが望まれています。そして特別支援教育を全校的な課題として教職員全体で取り組む教育実践と研究・発信が大切であると考えています。その取組の充実を図るため、本研究部と大阪市特別支援教育担任者会が一体となり、大阪市教育委員会インクルーシブ教育推進担当等と一層連携を図ってまいりたいと存じます。

コロナ渦のなかで残念ながら、今年も「合同うんどう会」「ふれあいステイ」「ふれあいデイキャンプ」が中止となり、「作品展」も会場展示を中止しました。一方で、リモート開催や紙上開催等の方法で研究・研修の成果を発信しました。全市研究発表会では「思春期の子どもの心のケア—発達障がいのある子どもが悩むこと」と題して、大阪医科薬科大学病院医師の金泰子先生にご講演をしてい

いただきました。全特連・近特連和歌山大会では大正中央中学校からボッチャ大会を通した取組について発表していただきました。また、昨年度まで行っていた「フレッシュ研修会」を、ダイバーシティ&インクルージョンの観点を取り入れた教育実践に向けた「インクルーシブ研修会」にし、ICT機器の活用事例や評価について実践報告と交流を図りました。さらに「中養タイムズ」「年度末研修報告会」等で各校の貴重な実践報告をしていただきました。

最後になりましたが、様々な行事・研修等の企画・準備・開催等にご支援ご協力をいただきました大阪市特別支援教育担任者会、大阪市教育委員会、小学校教育研究会、旧大阪市立特別支援学校をはじめ関係諸団体や多くの皆さまに深く感謝申しあげるとともに、大阪市の特別支援教育の益々の発展、深化充実を祈念してあいさつとさせていただきます。

令和3年度に特別支援教育部・担任者会が取り組んだ主な行事は次のとおりです。（※リモート開催はMicrosoft Teamsを使用）

- ① 第64回大阪市中学校特別支援学級・支援学校中等部 合同うんどう会
令和3年5月25日（火）〈コロナの為中止〉（於：ヤンマーフィールド長居）
- ② 特別支援教育部担任者会全体会
令和3年5月28日（金）リモート開催（於：大阪市立西中学校）
- ③ 第58回全特連近畿ブロック研究協議会 和歌山県大会
第60回全特連全国大会 和歌山県大会（コロナの為、誌上開催）
- ④ 第64回大阪市特別支援学級 ふれあいステイ
令和3年11月10日（水）～12日（金）（コロナの為中止）
（於：信太山青少年野外活動センター）
- ⑤ 第10回大阪市中学校特別支援学級 ふれあいデイキャンプ
令和3年11月17日（木）、18日（木）、19日（金）（コロナの為中止）
（於：大阪市舞洲障がい者スポーツセンター（アミティ舞洲））
- ⑥ 大阪市中学校特別支援学級・特別支援学校 生徒作品展
（第59回ぼくたち・わたしたちのさくひん展）（コロナの為中止）

令和4年1月20日(木)～27日(水)
(於：大阪市舞洲障がい者スポーツセンター(アミティ舞洲))
合同モニユメントの展示 令和4年3月4日(金)～
(於：大阪市教育センターインクルーシブ教育推進室)

- ⑦ 中学校教育研究会 全市一斉研究発表会及び年度末研究報告会
令和3年10月13日(木)リモート開催 (於：大阪市都島中学校)
令和4年 3月 4日(金)リモート開催 (於：大阪市立花乃井中学校)

「特別支援教育」第 64 号の発刊に寄せて

大阪市教育委員会
インクルーシブ教育推進担当
課長 平岡 昌樹

大阪市立中学校教育研究会特別支援教育部の活動と研究の成果をまとめられました「特別支援教育」第 64 号の発刊に際しまして、ごあいさつを申し上げます。はじめに、令和 3 年 1 月に「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議報告」及び中央教育審議会答申において、これからの特別支援教育の進むべき方向性として「障害のある子供の学びの場の整備・連携強化」、「特別支援教育を担う教師の専門性の向上」、「I C T 利活用等による特別支援教育の質の向上」、「関係機関の連携強化による切れ目ない支援の充実」などが示唆されました。また、令和 3 年 6 月 30 日、「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」が文部科学省より通知されました。この中で、一人一人の教育的ニーズを整理するため、「障害の状態の把握」、「特別に必要な指導内容の検討」、「教育上の合理的配慮を含む必要な支援の内容」の 3 つの観点が示されました。さらには、「特別支援学級と通級による指導等との関係について」が示され、自立活動を取り入れた教育課程の編成を行うことがうたわれています。各校におかれましては、支援を必要とするすべての生徒に対して、教育的ニーズを踏まえた適切な教育が提供できるよう、指導内容の一層の充実をお願いいたします。

さて、中学校教育研究会特別支援教育部におかれましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、本市特別支援教育の充実と発展に向け、日々教育的ニーズに応じた指導方法等の工夫に取り組まれてこられたことに、深く敬意を表しますとともに、お礼を申し上げます。

今年度の大阪市立中学校教育研究会研究発表は、『子どもたち一人一人が、共に学びに向かい 生きる力を育む教育をめざして』を研究主題としてウェブ開催され、大阪医科薬科大学病院金泰子先生から「思春期の子どもの心のケア－発達障がいのある子が悩むこと－」と題して、思春期段階にある発達障がいのある生徒の行動や、悩みへの理解と対応についてご講演いただきました。金先生の子どもへの愛情あふれるお話の中で、多くの先生方が勇気と元気をいただけたのではないのでしょうか。生徒一人一人の障がいや発達の状況は様々ですが、各校におかれましては、教育課程に自立活動を改めて位置づけていただき、指導・支援を一層工夫し、研究主題に示す教育の実践を深化・充実させていただきますようお願いいたします。

本市では従来より、障がいのある生徒と障がいのない生徒が「共に学び、共に育ち、共に生きる」教育を推進し、障がいのある生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を進めております。教育委員会としましては、今後も貴特別支援教育部ならびに貴担任者会と連携を図り、インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育の一層の充実に取り組んでまいります。

終わりにりましたが、貴特別支援教育部と貴担任者会のご発展、並びに関係の皆様様の益々のご活躍を祈念いたしましてごあいさついたします。